2023 年 4 月 27 日放送

# 学薬アワー　2022 年度全国学校保健調査集計結果報告

日本薬剤師会
理事　堀越　博一

2022 年度全国学校保健調査の結果の一部を、速報値として報告させていただきます。速報値ですので、お示しする数値は、後日修正されることもある旨、ご理解願います。この全国学校保健調査は全国の学校における環境衛生活動の実績を把握し、その充実や改善に役立てる目的で昭和 46 年から毎年、調査項目を選定し、全国の学校薬剤師が各担当校において調査・回収し、日本薬剤師会学校薬剤師部会が集計・分析をしています。

本調査の調査対象は、全国の大学以外の認定こども園を含む、すべての学校 51,228 校であり、これらの学校のうち回答のあった 33,952 校から、学校の種類等の基本データの欠落等による集計不能分を除いた 33,846 校を対象に集計を行いました。

## 学校薬剤師制度の概要

本日、集計結果の解説に入る前に、学校薬剤師制度の概要について、簡単に説明させていただきたいと思います。学校薬剤師は、学校保健安全法で大学以外の学校（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校）には学校薬剤師の設置が義務付けられています。また、認定こども園も同法が準用され、学校薬剤師を置かなければなりません。

1930（昭和 5）年、ある小学校で風邪をひいて体調の悪い女子児童に医薬品を服用させるつもりが誤って毒薬を服用させたため、女子児童は亡くなってしまうという痛ましい事故が起こってしまったことをきっかけとし、いろいろな薬を保管している学校にクスリの専門家を置くべきだという声が高まり、学校に薬剤師を配置することになり、昭和 6 年に当該市が学校薬剤師を委嘱しました。

その後、この流れは全国に波及し、昭和 33 年には学校保健法が制定公布され、学校には

学校医、大学以外の学校には学校歯科医又は学校薬剤師を置くものとする。と定められ、これは世界でも大変珍しく海外の薬剤師からも注目されています。

学校薬剤師の年代は、今回の調査結果から見ても、20 代から 80 代と多岐に渡っており、その中で薬局の勤務者が最も多く 54.9%を占めますが、ついで薬局開設者、病院診療所の薬剤師の順となっています。それ以外にも卸や行政勤務者など多くの職につく薬剤師が児童・生徒の環境衛生の維持管理に関与しています。

**学校環境衛生検査における検査項目**

学校環境衛生検査における検査項目は、学校環境衛生基準によって定められております。概要としては、

1. 教室等の環境に係る学校環境衛生基準
   換気及び保温等
   採光及び照明
   騒音
2. 飲料水等の水質及び施設・設備に係る学校環境衛生基準
   水質
   施設・設備
3. 学校の清潔、ネズミ、衛生害虫等及び教室等の備品の管理に係る学校環境衛生基準
   学校の清潔
   ネズミ、衛生害虫等
   教室等の備品の管理
4. 水泳プールに係る学校環境衛生基準
   水質
   施設・設備の衛生状態
5. 日常における環境衛生に係る学校環境衛生基準
   教室等の環境
   飲料水等の水質及び施設・設備
   学校の清潔及びネズミ、衛生害虫等
   水泳プールの管理
6. 雑則（臨時検査）

といった形で定められております。日本薬剤師会学校薬剤師部会としては定められた全項目の検査の実施・指導助言に向けて活動を実施しています。

**2022 年度調査結果**

コロナ禍にあって、学校園での通常の活動が大変難しい状況にありました。特にプールや

授業中の教室内での換気状況などが以前と顕著に状況が異なりました。今回の 2022 年度調査では、この 2 項目の検査の実施状況等についての調査を行いましたので、そのうちの主な設問の調査結果について報告させていただきます。

まず、プールについての調査結果です。

プールの有無について確認しましたが、ここからも昨今の学校環境が以前と大きく異なることがわかりました。全体で屋外プールを有するのは 68.6%で屋内プールを有するのは 2.5%、幼児用の簡易プールを有するのは 7.6 %と、全体で 78.9%でプールを有しているものの、他施設利用が 8.0%。他施設の利用もないのが 13.2%でした。全日制や定時制高校では特に他施設の利用もないと回答の%が高かったことが特徴的でした。

プールの清掃状況についてですが、2020 年度、2021 年度とも行われた施設は 64.3%、2020 年度は行わなかったが、2021 年度は行われた施設は 17.2%、2020 年度は行われたが、2021 年度は行われなかった施設は 1.6%、2020 年度、2021 年度とも行われなかった施設は 16.9%となりました。

また、2021 年度にプールの定期検査を行いましたか。という調査についてですが、「行った」が 62.2%と最も多く、ついで「コロナの影響でプールの授業がなく、行わなかった」が 30.0%を占めました。ここでは全日制の高等学校では定期検査の実施率が 81.3%と特に高かったことも特徴といえます。

「プール施設・設備は基準に適合していましたか。」という調査では「全て適合した」が 92.4%となり、「不適合項目があった」が 5.5%となり、「指導・助言を行い、改善した」が 46.8%、「指導・助言を行い、一部改善した」が 20.5%となっています。

続いて、教室内の換気についてです。

「換気における日常点検が行われていましたか。」という問いに対し、「行われていた」との回答が 92.8%あり、「本校において、どのような換気対策が行われていましたか（複数回答可)」と質問したところ、「1. 窓・ドア・欄間の会報による換気」が 98.1%「2. 換気扇の使用」40.4%「3. 全熱交換器の使用」3.1%「4. サーキュレータの使用」22.2%「5. 二酸化炭素濃度測定器の使用」22.2%「6. 空気清浄機の使用」23.0%「7. その他の換気対策」3.5%「8. 換気対策をしていない」0.1%となりました。

次に新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策について情報提供を行いましたかの設問では「自ら行った」33.4%、「問い合わせがあったので行った」44.0%、「行わなかった」30.2%でした。

どのような項目を情報提供しましたかの設問では「換気」67.2%、「清掃・消毒剤」68.3%、「手洗い」44.9%、「マスク等」34.3%が主だった回答でした。

以上を持ちまして、2022 年度全国学校保健調査の速報に関する説明を終わらせていただきます。

結びになりますが 2021 年度も新型コロナウイルスが継続して蔓延する中、本調査を実施するにあたり、ご指導ご鞭撻を賜りました文部科学省初等中等教育局、健康教育調査官並びに各都道府県市町村等の教育委員会に深く感謝申し上げます。